

大自然を感じる心と表現 — 空間： 現代美術と祈りの舞

日時：2018年5月15日（火）16:00～18:00

開場：15:30～

場所：金沢21世紀美術館・シアター21

一般公開・入場無料

お問い合わせ先：石川高専建築学科 熊澤まで (076-288-8180 / kuma@ishikawa-nct.ac.jp)

インプロビバイザーの音楽家・茶喜利 (CHAKKIRI)、ニューヨークを拠点に活躍してきた画家・坂口登と舞踊家・那須シズノらが織りなすダンスデモンストレーション。

「空間・場」をキーワードに、音楽、絵画・舞踊あるは建築、将来のある若者など多様な立場や差異を超えて共感する可能性の場 (インプロビゼーション) を形成するクロストークセッション。

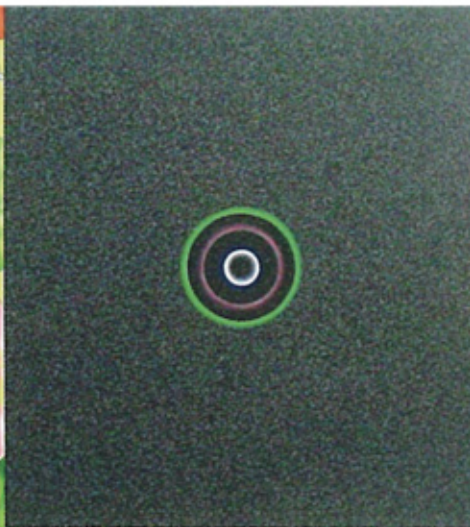


茶喜利・CHAKKIRI



那須シズノ・SIZUNO NASU

ダンスデモンストレーション「心と地球—絵画 音楽 舞踊 コラボレーション」は金沢公演のための音楽・絵画・舞踊 全てオリジナル作品



坂口 登・SUSUMU SAKAGUCHI

1. 開催趣旨

「女性と男性が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」(内閣府男女共同参画局)こそ、社会変動が大きい現在において喫緊の課題とされている。しかし昨今における具体的な施策の現場では、女性の社会参画や活動が極めて大きく取り上げられる傾向にあり、本来の男女共同参画の精神から逸脱する嫌いも憂慮される。

石川支所では、本来の男女共同参画のあり方として、それぞれの立場を超えて共感し共に理解する実践の場に焦点を当てたい。インプロビザイザーの音楽家・茶喜利、ニューヨークを拠点に活躍してきた画家・坂口登と舞踊家・那須シズノがハワイの大自然に触れ、新たな境地で切り拓いてきた創造活動の境地について、「空間・場」をキーワードに、音楽・画家・舞踊家あるは建築家、将来のある若者など多様な立場や差異を超えて共感する可能性の場を形成することを目的とする。

2. 特別招待者の紹介

那須シズノ (なす・しずの)：大阪生まれ。3歳でクラシックバレエを始め、僅か7歳でポリショイバレエの交換留学生に選出、19歳でプロダンサーとしてデビュー。フランス、ドイツ、イタリア、ギリシア、インド、韓国、中国、日本、アメリカなどの国々で、そのパフォーマンスを賞賛される。「踊りの原点」とは何かと問い、古代から伝わる日本の「舞」の探究に入る。長年にわたり「舞の巡礼」として日本全国を踊り渡り、舞踊の技を極め、舞いにおける深い精神性を学び、那須シズノ舞「SPIRAL VISIONースパイラルビジョン」を醸成する。2010年ハワイ島ボルケーノにシズノダンススタジオを設立。

坂口登 (さかぐち・すすむ)：1944年生まれ、12才で渡米。カルフォルニア芸術大学大学院を首席で卒業後、ニューヨーク、ハワイを拠点にして活動し続ける国際的美術家。1977年からIsamu Noguchiに認められ最晩年の1988年までニューヨーク・チーフアシスタントを務める。1961年原美術館の企画を皮切りに日本に於いても作品を発表することになる。近年日本における展覧会としては田中一村記念館5周年記念「坂口登展」(2006年)、ノリタケの森ギャラリー「美しい地球 坂口登展」(2017年)などがある。

茶喜利 (CHAKKIRI)：インド古典音楽家 Kishor Ghosh 氏に師事し、Norah Jones 氏の父である Ravi Shankar 氏の口伝「Raga」を即興演奏する。20代に訪れた中国の西安で自身に流れる母なる旋律「Mother Note」に出会い、コンサートと共に音楽療法を展開する。

現在、女優浅野温子氏の「古事記よみ語り」の音楽を担当するなど、全国の神社や仏閣で奉納演奏をおこなっている。

3. 日時：2018年5月15日(火) 16:00～18:00 (開場：15:30～)

場所：金沢21世紀美術館・シアター21

4. 構成

16:00 趣旨説明(司会：熊澤栄二/石川高専・教授)

■第一部：現代美術と祈りの舞 ダンスデモンストレーション「心と地球ー絵画 音楽 舞踊 コラボレーション」

16:10-16:40 (計30分) 坂口登+茶喜利+那須シズノ

■第二部：トークセッション「大自然を感じる心と表現」(モデレーター：道地慶子/石川高専・教授)

17:00-17:30 (計30分) 招待講演者(5名予定)による話題提供

17:30-17:45 クロストーク

17:50 総括

17:55 閉会・日本建築学会北陸支部 石川支所長挨拶